



認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
中期ビジョン(2025年作成)

『地域を変える/子どもが変わる/未来を変える』

これは、団体設立当初に掲げたWAKUWAKUの大本となるビジョンです。子どもの声を受け止め、子どもの最善の利益を優先する仲間を増やし、地域を変えていきたいと考えています。

存在まるごとを肯定されることにより、子ども自身が変わっていきます。

そして、子どもの未来が変わり、その子どもが創るこの地域の未来も変わっていきます。

子どもが遊んで育つ！学んで育つ！笑って育つ！食べて育つ！

子どもが主体的に育つことを多くの仲間と見守りたいと思っています。

1. おせっかいの質の向上

WAKUWAKUがいう「おせっかい」とは、節度のある介入です。余計なことはしないけれど、必要だと思うことはやっていく、そんなおせっかいです。そのためには子どもが安心して受けられるおせっかいである必要があります。

＜安心できるおせっかい＞ ○子どものためのセーフガーディング※や、子どもの権利条約の普及により、大人の都合で判断せず、どんな子どもも安心しておせっかいを受けられ、大切にされることを目指します。

＜循環するおせっかい＞ ○安心できるおせっかいを受けた子どもは、助けてほしい時に声をあげられる人に育ち、おせっかいという言葉に対して意識が変わります。そしておせっかいされた子どもや大人が、“おせっかえる”※になると信じ、そのようにおせっかいが循環していくことをを目指します。

※セーフガーディング：安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組み。

※おせっかえる：おせっかいしてもらって成長し、おせっかいを返していく人。

2. おせっかいネットワークの発展

おせっかいを一人でやるには勇氣が必要です。安心しておせっかいができる人(子どもも)を増やすためには、関心ある仲間がつながることが大切です。

<おせっかいの場の創設> ○おせっかいをしたいと思う人が思うだけで終わるのはもったいないことです。おせっかいな人をおせっかいし、地域のおせっかいの発掘と活躍で、きの場を協働で創ることを目指します。

<WAKUWAKU感が広がる> ○おせっかいを通じた出会いは、おせっかいをする人にも多くの喜びをもたらします。おせっかいの輪が広がることは、地域にWAKUWAKU感が広がることです。そしておせっかいの輪が広がることで、孤立する人がいない地域を目指します。

<柔軟な対応、繋がって取り組む> ○一人ひとりの子どもの声を大事にし、柔軟に対応します。「仕方ないよね」で済ますことなく、地域のおせっかいさんと繋がって取り組む事により、仲間のすそ野を広げていきます。

3. WAKUWAKUがおせっかいを持続していくために

○おせっかいを一人でやり続けることが難しいのと同様に、WAKUWAKU だけでおせっかいを続けることは困難です。おせっかいを続けていくためには、様々なステークホルダー（NPO、企業、行政、学校、社会福祉関係団体など）との協働・共創を目指します。○これまで、制度のはざまにあるニーズに取り組んできましたが、長年ニーズがあるということは、社会の仕組みにしていくことが必要です。社会の仕組みとなり、安定しておせっかいが持続していくことを目指します。

2025年6月28日